

岡谷市民新聞

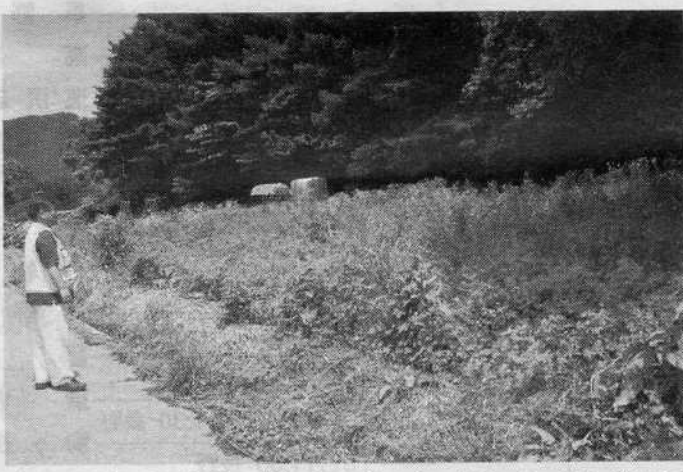
発行所
〒394-0028 岡谷市本町3
岡谷市民新聞社
編集・発行人 薩摩 正
電話 記事23・4445
広告22・8000
購読22・8001
事業22・8002
総務23・4441
FAX 記事22・4444
FAX 広告21・1515
インターネットページ
www.shimin.co.jp
E-mail(記事)
mail@shimin.co.jp
E-mail(広告)
koukoku@shimin.co.jp
©岡谷市民新聞社 2008年
定価1ヵ月1,690円
1部売り60円 (税込み)

市民新聞の購読申込みや
新聞店への問い合わせは
☎22・8001へ
本紙をお届けする販売店
浜新聞店 ☎22・2393
読売センター岡谷 ☎22・9680
産経新聞岡谷 ☎22・3881
中日新聞店 ☎22・4129
毎日新聞大野 ☎22・2835
唐沢新聞店 ☎23・0896
□長地地区□
ASA下諏訪営業所 ☎27・8114
信毎販売C下諏訪営業所 ☎27・7602
毎日新聞専売所 ☎28・6014
矢川新聞店 ☎27・3883
中日新聞専売所 ☎28・3632

遊休農地活用 子らに農を伝える場にも

三沢区 初の区民農園開設へ

三沢区(山之内寛区) 休農地を区内の農家から借り、市内でも初の区民農園を開設する。農の楽しさを子どもに伝え、農家から農作業を学びながら自家用野菜を作ろうという企画。土に触れる活動への関心が高まるなか、遊休荒廃農地の有効活用としても注目されそうだ。



区民農園として用意した有休農地

同区内には多くの遊休農地があり、とくに山際は雑草が生え、やぶと化して荒れる一方となっている。高齢や仕事の都合で休耕している人の中には、農地保全のため貸したいという人も多く、一方、家庭菜園をやりたいという区民も多いことから、区で借りて区民農園を開設することになった。二十日開かれた同区議会で承認された。

区には、農地の寄付を申し出る人もあり、現在上二に二カ所、上四に一カ所の合わせて三カ所千平方メートルの遊休農地が区民農園の用地として確保されている。そのほかにも、貸したいという人が多く、希望者の数によってはさらに広がりそうだ。募集は月末から回覧で隣組長、町内会長を通じて行う。農作業が初めての人には区内の農家が講師となり指導、参加者には自主運営してもらおう。個別に区画を割り当てるか、集団で作業を行い収穫野菜を分けるか、方法は今後決めていきたいとしている。

農園開設に当たっては区内にあるNPO「農と人とくらし研究センター」(片倉和人代表)とも連携。遊休農地でヤギを育て、ミルクからチーズづくりをしたいという夢も描いている。

山之内区長は、「子どもたちと農に取り組み作業の喜びをともに分かち合いたい。やがて来ると言われる食料危機に備え、地産地消、自給自足を目指し、二十年後、三十年後の子ども達がここで覚えた農業を伝えていってほしい」と話していた。

2008年6月22日(日)

岡谷市民新聞

区民農園の問い合わせは、同区(電23・0663)へ。